

ニッペ インディフレッシュセラ

砂壁状や土壁状の高意匠塗材の意匠性をそのままに。
美しい外壁に生まれ変わります。

ホルムアルデヒド
放 散 等 級

F☆☆☆☆

■ 特長

① 高耐久性

高耐候性シリコン系樹脂に1液水性反応硬化技術を組み合わせ、すぐれた耐久性を実現しました。

② 美しい仕上り

顔料配合技術により、高意匠塗材の質感を損なわない、落ち着いたマットな仕上りが得られます。

③ 低汚染性

親水化技術により外壁の美観を損なう雨垂れ汚染から外壁をまもり、美しさを長持ちさせます。

④ 微弾性

微弾性塗膜なので、下地のヘアクラックに追随します。

⑤ 透湿性

塗膜には透湿性がありますので、背面からの水分影響を緩和し、膨れを抑制します。

⑥ 防藻・防かび性

藻やかびの発生を抑制し、建物の美観を維持します。

⑦ オール水性システム

下塗りから上塗りまですべて水性塗料での施工が可能です。
取扱いが安全で、臭気が少なく環境に配慮した塗料です。



※写真はイメージです。



※高意匠塗材の例。

■ 用途

戸建住宅、マンション、商業施設などの
内外装砂壁状意匠塗材の既存意匠を活かした改修
一般内外壁面のつや消し仕上げでの改修

■ 適用下地

新設適用下地: コンクリート・モルタル・ALC板・スレート板・
けい酸カルシウム板などの各種素材
改修適用下地: 上記各種素材面の各種砂壁意匠塗材・
土壁状意匠塗材・その他各種旧塗膜

■ 標準塗装仕様

工 程	塗 料 名	塗り回数	使用量 (kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
素地調整	活膜は残し、劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、よごれを除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	水性カチオンシーラー ホワイト	1	0.10~0.16	4時間以上	水道水	0~10	はけ ウールローラー
上塗り	インディフレッシュセラ	2	0.30~0.50	3時間以上	水道水	5~10	はけ ウールローラー

★上記の各数値は全て標準的なものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ねを乾燥時間をまもってください。

★旧塗膜は健全な状態であることを想定しています。

★同系色の塗替えには下塗りに水性カチオンシーラー透明もご使用いただけます。製品に関する詳細は製品使用説明書をご参照ください。

■既存塗膜別の使用量目安

既存塗膜（インディアートセラ）パターン例				使用量 (kg/m ² /回)	1缶あたりの塗装面積 (m ² /2回)
・フラット ・ラフ				0.30～0.40	25～33
	ジュラク風	砂壁風	ウェーブ		
・ラフ ・クラッド				0.35～0.45	22～28
	ラフ	模様ローラーヘッド押さえ	吹付スタッコヘッド押さえ		
・ライン				0.40～0.50	20～25
	くし目ローラープレス	ローラーレリーフ	ラージコムライン		

■容量・荷姿

塗料名	系 統	容 量	色 相	つ や
インディフレッシュセラ	砂壁状意匠塗材改修用 シリコン系つや消し塗料	20kg	各 色	つや消し

■施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

1. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、やむを得ず塗装する場合は、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
2. 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85％以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. 微細な骨材を配合しておりますので、エアレス塗装は避けてください。
5. 面内での塗り継ぎは、継ぎむらが発生しやすいので素早く行ってください。
6. 外部では、酸性雨、ばい煙など酸化物質（Nox、Sox）により変色する場合があります。酸性環境が予想される場合は、トップクリヤー（ジキートン水性シリコンクリヤー3分つや有り）を塗装してください。
7. 気温が高く、西日や直射日光が当たっている部位では、乾燥が非常に早くなりますので塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、シートなどで日陰を作って施工してください。その際、本施工の前に、希釈水を1～2％増量して試し塗りを行なってください。
8. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
9. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
10. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
11. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
12. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
13. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
14. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタートをオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
15. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風の無い場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
16. 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
17. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
18. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
19. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
20. 動物はけは、はけが固まったりタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
21. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
22. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
23. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
24. 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
25. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
26. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合は薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
27. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
28. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
29. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
30. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
31. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
32. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
33. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
34. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
35. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所に使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトクリヤーシリーズ（MK/DF/SI）を上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
36. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
37. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
38. ローター塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なると見えることがあります。
39. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
40. 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
41. ローター、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
42. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビ珪鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
43. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
44. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品は、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
45. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密性してからラップ等で保存し、速やかに使い切ってください。
46. 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
47. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
48. 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
49. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

- 本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
- 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店	☎011-370-3101	近畿支店	☎06-6455-9608
東北支店	☎022-232-6711	中国支店	☎082-281-2180
関東支店	☎03-5479-3614	四国支店	☎0877-56-2346
北関東信越支店	☎03-5479-3614	九州支店	☎092-751-9861
中部支店	☎052-461-1960		

- 本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2026 NIPPON PAINT Co.,LTD. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.

NP-E128

TY260801T

2026年8月現在